

古文復興

韓愈の生きていた時代の文章は、四字句や六字句によって対句を構成し、典故（過去の詩文や出来事）の使用や押韻、平仄などの制約が多い四六駢儷文が主流だった。韓愈は四六駢儷文を排し、先秦・秦漢の散文である「古文」に復古して、達意の文章を書くことを主張した。これを「古文復興」という。韓愈は次のように言う。

「私が古文を作るのは、今と異なる文章を学ぶ取ためだけではない。（中略）もともとは古道を目指しているのである。」（題哀辭後）

「古道」とは、上古の聖人の考えやその政治のことである。韓愈は古文を作ることで、そのなかにある古道を目指し、古道を学び取ろうとしたのであった。

韓愈の古文復興は、親友の柳宗元が賛同し、北宋の欧陽脩に至って完成した。それ以降、古文は中国の文章の主流となり、名文の規範として広く読まれるようになったのである。